

教育事業

青少年の体験活動等の重要性の普及・啓発に関する事業

「第38回さんべ祭」

1 趣 旨

三瓶山北の原地区の5施設が軸となり、地域の人々と密接な連携のもと事業を展開する。また、テーマに沿った事業をとおして、参加者の三瓶地域への愛着を引き出し、引いては三瓶山周辺地域の活性化を図る。

2 テーマ

「だからわくわく もりだくさんべ！」

三瓶地域にはよいところ素敵なところがたくさんある。三瓶に来たら“わくわく”するような場所であること、いろいろな体験が“もりだくさん”できることを、さんべ祭を通して知ってもらいたい、また、三瓶をもっと好きになってもらいたいという願いを込めている。



3 事業の概要

- (1) 期 日 平成28年10月15日(土)～16日(日)
- (2) 主 催 第38回さんべ祭実行委員会 (事務局：国立三瓶青少年交流の家内)
(構成団体) 国立三瓶青少年交流の家、島根県立三瓶自然館サヒメル、三瓶こもれびの広場木工館、大田市山村留学センター、SANBE BURGER、三瓶ウォーク実行委員会
- (3) 後 援 大田市、出雲市、雲南市、江津市、飯南町、川本町、美郷町、大田市教育委員会、出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、江津市教育委員会、飯南町教育委員会、川本町教育委員会、美郷町教育委員会、山陰中央新報社、朝日新聞松江総局、中国新聞社、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、島根日日新聞社、NHK 松江放送局、TSK 山陰中央テレビ、BSS 山陰放送、日本海テレビ、エフエム山陰、石見銀山テレビ放送(株)
- (4) 参加者 宿泊者 53名 日帰り利用者 3,172名(第1日/1,717名, 第2日/1,455名)
- (5) 主な内容 (★体験活動ブース)

国立三瓶青少年交流の家会場	わくわく体験“もりだくさんべ!”	★体験活動ブース ①竹細工(マイはしづくり)②SK竹トンボ③さんベリンピック2016 inさんべ祭(おはしつまみ、ペットボトルキャップすくい、つまようじダーツ)④カプラ⑤茶道⑥パウムクーヘン ★宿泊者対象(夜): ①カプラで街づくり②絵本読み聞かせ③天体観察
	さんべSUNSUNビレッジ(三瓶地域協育ネットワーク展示・体験ブース 9団体)	★福間牧場、★多根神楽団、★五十猛歴史研究会、三瓶まちづくり委員会、★やましろ屋、★美郷町観光協会、★カヌーの里おおち、子ご美の里、三瓶ヘルスツーリズム協議会
	ステージ企画(出演7団体)	池田保育園、志学保育園、北三瓶っ子太鼓クラブ、大田ウィンドオーケストラ&おおちプラス同好会、多根神楽、島根県立出雲高等学校ダンス同好会 PFC <ステージゲスト: 梶谷美由紀 with 大畑茂樹カルテット>
	さんべ夢ステージ(さんべボランティアによる企画・体験ブース)	★ステージ発表「さんべランド」、★わくわくものづくり体験場(木の実の写真立て、べっこうあめ)、★さんべ祭アート、★さんべクエスト(スタンプラリー、ネイチャーゲーム、チャレンジウォール)、バルンリリース
	わくわく横丁1丁目・2丁目展示(出展14団体)	島根県立大田高等学校写真部、志学折り紙友の会、松江自然保護官事務所、小さな自然館、さんべ木工館作品、大田市特別支援教育部会なかよし学級、島根県立大田高等学校美術部、島根森林管理署、ヘルスサイエンスセンター島根、しまねまごころバンク
物産・工芸品展(出店18団体)	三瓶大鍋(2日間各200食無料提供) しまねの物産・工芸品販売・フリーマーケット	

共催施設会場	島根県立三瓶自然館サヒメル	★三瓶どがな横町 ★ススキの迷路
	さんべこもれびの広場木工館	★木のおもちゃで遊ぼう（ドミノ、積み木など） ★大田市森林組合林業祭
	大田市山村留学センター	★石臼でひくさんべそば体験
	SANBE BURGER	さんべ祭限定特別バーガー販売 くじ引き～素敵なプレゼントを当ててね！～
	さんべウォーク実行委員会	★「ぐるっと三瓶くにびきウォーク 2016」（306名参加） ・三瓶周遊コース（15km） ・木漏れ日コース（5km）
共通	スタンプラリー	5施設をめぐる企画

4 成果と課題

<成 果>

- ・今年度は、『だからわくわく もりだくさんべ!』のテーマのもと、近隣5施設や三瓶地域の事業所・団体等との連携はもちろん、地元の高校との連携強化、子どもを対象とした体験活動の強化、宿泊者向けの体験活動プログラムの実施等に取り組んだ。その結果、新たに高校の写真部・美術部の出展や茶室を利用したプログラム体験ブースの一つ“茶道体験”への茶道部の協力、さらには、さんべ祭ボランティアとしての参加協力も得ることができた。また、その他たくさんの“体験”ができるブースを展開したことで、随所で様々な体験・交流の場を創出することができた。
- ・今年度は地域の子供達をモデルとしたポスターとチラシを作成することで、従来よりも地域連携や三瓶地域への愛着といったイベントのテーマに合致した広報活動を展開することができた。

<課 題>

- ・今年度の来場者数は、昨年度と比べると減少した。近隣施設等のイベントが競合してしまったことが考えられる。来年度は、Web や SNS（Facebook 等）を通じて各企画を紹介するなど、情報発信を強化していく必要がある。
- ・さんべ祭が三瓶山北の原地区の一大イベントとして意味を持って存続していくためには、今後も連携5施設が、“三瓶周辺地域の活性化”、“地域連携”等共通の課題意識を持って取り組んでいくことが必要である。来年度以降も、早めに事前の話し合いをしっかりと持ち、各施設が方向を一にしてこの事業に主体的に取り組んでいけるように方向づけをしていかなければならない。



茶室を開放し、交流の家研修指導員と地元高校茶道部の協力で体験ブース“茶道体験 in さんべ祭”を開く。



たくさんの子ども達でにぎわう、わくわく体験“もりだくさんべ”ブース。大学生・高校生ボランティアも大活躍！

(担当：事業推進室長 濱野 健一)